



# 堺イェニツクスロータークラブ

D2640 Sakai Phoenix Rotary Club

題字：周之江

### 四つのテスト

～言行はこれに照らしてから～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

### 地区ガバナー

三軒 久義

### 会長

米田 真理子

### 幹事

石田 得子

### 会報委員長

小野 晃範

### クラブ情報

〒590-0073  
大阪府堺市堺区南向陽町2-2-25  
ホテル第一堺

TEL : 072-227-4990  
FAX : 072-227-4991

<http://www.sakaiphoenix.com>  
[rotary@sakaiphoenix.com](mailto:rotary@sakaiphoenix.com)

例会日：毎週木曜日 18:30～  
例会場：ホテル第一堺

URL: <http://www.sakaiphoenix.com>

E-mail: [rotary@sakaiphoenix.com](mailto:rotary@sakaiphoenix.com)

# 創立十周年記念



## 特別号

平成19年4月7日(土)

創立10周年会長 米田真理子



2006～07年度国際ロータリーテーマ

# 率先しよう

2006～07年度国際ロータリー会長  
ウィリアム・ビル・ボイド

**創立 10 周年を迎えて**



**お祝いのことば**

## 奉仕活動10年の歩み

10 周年会長 (2006～2007)

米田眞理子

「春」桜の満開の 10 年前のこの季節、1997 年 4 月 2 日に堺フェニックスロータリークラブは RI 加盟承認をいただきました。

それまでの準備は、連日、我家の敷地内にあるログハウスで重ね、時には一日 10 時間以上の作業にも及ぶ日もありました。無事 1997 年 3 月 27 日にリーガロイヤルホテルでの創立総会を終え、RI 加盟承認、5 月 29 日に認証状伝達式を迎え、半年以上にわたる新クラブ設立に創立メンバーとして加わらせていただいたことはロータリアンとして生涯の素晴らしい経験・思い出となりました。

この時、「誰も一人では目的を達せない」と実感いたしました。

自分たちで創立したという堺フェニックスロータリークラブへの愛クラブ精神は人並み以上のものがございます。ましてや、そのクラブの創立 10 周年の会長に就任いたしましたことは感無量でございます。 措いて

現在、ロータリークラブの会員数減少を愁うる声を耳にします。もちろん現在の会員を維持することも大切ですが、新しい資質のある方を、特に女性会員を探すことも大切です。女性は現在さまざまなビジネスや職業分野で活躍しているにもかかわらず、ロータリーの中ではまだ 10%にしか過ぎません。また、新しい会員を集めるには何を措いても各自が職業奉仕というものをしなければならぬのではないのでしょうか。私たちはクラブ奉仕・社会奉仕・国際奉仕ということには力を注いできましたが、職業奉仕ということにあまり目を向けていなかったのではないのでしょうか？大変お恥ずか

しい次第ですが入会后 10 年経てやっと職業奉仕の意義を理解できるようになってまいりました。

職業奉仕は他の奉仕団体とロータリーを区別するものとして、忘れることができないと思います。倫理規範を挙げることで、これは職業奉仕の礎石であり現代の腐敗とスキャンダルに満ちたビジネスの風潮の中で、きわめて大切になっていくと思われれます。多くのスキャンダルの根源は不誠実さと食欲さではないでしょうか。

ポールハリスは「名誉と高潔さ、幸福を欠くそのようなものであっても、いくら金持ちであってもなんと虚しいことであろうか」と言っています。ロータリアンとして私たちはこのポールハリスの言葉の表す知見を理解し、職業奉仕に力を注がねばなりません。そしてこの知見を他の方々と共有することが重要なことなのです。ロータリーは 100 年・一世紀を超え、私たちのクラブはやっと 10 年を超えました。このロータリーの伝統をもう一度考え、新しい一歩を踏み出そうではありませんか。目標に向かって進み将来の私たちの奉仕の理想を叶えようではありませんか。

堺フェニックス RC の 10 年は日本の四季のようでした。春に誕生し、輝く夏を迎え、そして仲間同士の諍いの秋、そのあとの冬の冷たさ、寂しさ、そして新しい息吹の春を迎え、10 周年という節目を越え、また新しい一歩が始まります。この間、数々の国際奉仕事業・社会奉仕事業に取り組み、成功させてまいりました。今年度は堺市内川・土居川に観光船の寄贈、定期就航の実現。内川・土居川の清浄化、RI 提唱の「水保全」「環境保全」に確りと取り組み、またひとつ大きな夢を実現させました。また、タイ国におきましてはタイの 2 つの RC との W C S で図書館の寄贈という、「識字率向上」「青

少年育成」と言う国際奉仕事業にも取り組み成功させました。

減少一途にある会員も 27名から 31名になり、再入会員や新会員の素晴らしい資質を加えて現会員の活躍で、さらに活力ある仲の良い素晴らしいクラブに成長いたしました。

次年度は地区委員長が三名になります。

WCS・青少年交換・米山記念奨学事業委員長です。ますます国際奉仕的なクラブになることでしょう。鳥が飛び立つときは逆風に向かって飛び立つと言います。新しい年度に夢を託し、さらにフェニックスのごとく会員皆様と奉仕の夢を大空にひろげましょう。



**環濠観光船『フェニックス号』初就航**

**2006.10.1 土居川内川祭り.**



**乗船場前にて**



**WCS 寄贈の集会所 (ランタ島)**



IMを開催 11月18日 IM8組ホストクラブとして

### 創立会長（1996～1997） 坂口義郎

私達堺フェニックス RC10歳の誕生日、まことにおめでとうございます。

当クラブは大勢の方々のご支援のもと、1997年3月27日（創立総会）堺 RC を親クラブとし、33名で発会しまして以来、多少の曲折を伴いながらも、新進気鋭の RC として成長して参りました。顧みて、この10年の世相の変化は“滄桑（そうそう）”の変を思わせる程のものでした。RC 全体も之の影響を避け得ずまるで会員減少が始まる時期に、私達のクラブがスタートしたかと思われる程です。

従って会員数は、増えては減少し、出席率はままならずといった状況が続きましたが、そうした中で歴代クラブは、親睦活動や、様々な奉仕活動に、和やかに明るく、実によく頑張っただけを思い起こし誠に微笑ましいものがあります。

特に、姉妹クラブ、ルンビニー RC や友好クラブ福井フェニックス RC と連携しての諸活動は、RC として堂々たる姿といえましょう。昨年来、世界経済の回復、発展は目覚ましいものがあり、大勢に於いて好調の兆しを覚えます。この地域の先行きも何卒、明るい方向に向かうことを期待しております。

さて、私事、当クラブスタートの時は、堺東南 RC 在籍の20年目でありまして、この時は、堺東南 RC 会長として、クラブ積年の課題であった例会場移転計画を実現させるべく、会長エレクト後半から会長前半期まで、一年かけて、その都度全役員で全会員の合意を得ながら進行する過程で、諸事煮詰められた結果、新クラブが誕生となりました。

堺フェニックス RC の創世記の様子は当時の素朴な会報より明白ですが、一つ思い起こしますのは、クラブの自由活発な発展を妨げない為に、“会長会”などは作らないとした事がありました。

創立の時、私は71才、「既に」体力の低下に伴う情念の衰えを意識しておりました。が、ロータリー活動には様々な顔がありますが、“WCS”は会員の皆さんにぜひその機会を持って頂かねばと思っておりました。それは私が S. 52 年入会してロータリーに最も魅力を感じたのは“WCS”であり、3年後にはクラブ独自の WCS 第1号と言われた活動を台湾（恵明盲童育幼院）に行い、そのあとネグロス（比）へ、かずさ掘り式井戸堀 WCS を行ったりしましたが、ロータリーなればこそ行える、

こうした活動の結果が、その後の自らの人生に与えられた心の豊かさや、国内外。ロータリー内外に多くの生涯の友を得たという様なことか

ら、岡本会長一行の発動に同行しまして、先ずはその後も、ルンビニーRCとの交際やWCSが続いていることは嬉しい事です。創立時、堺 RC から受けました恩恵や、近隣 RC からのご協力には、WCS の縁に深く係る友情の

賜物であったと感謝しております。また、めでたく創立に到るまでの混沌の時以来の諸兄との友情の絆に乾杯し、クラブの益々の発展を祈念して筆を擱きます。



国際ロータリー加盟認証状伝達式 1997. 5. 29 於:東京第一ホテル堺

## 2代会長（1997-1998） 小野晃範

創立 10 周年心よりお祝い申し上げます。私達が自らで選んだフェニックスという名前の通り、当クラブは地域において、また国際的に空高く力強く飛翔していることを心から誇りに思います。

私は、昭和 57 年に仁田前会員のご推薦で堺東南 RC に入会させていただき、ロータリアンとして様々なご指導のもとに貴重な経験をさせていただきましたことを感謝しております。

前クラブの例会場移転問題のあとを受け、2代会長を拝命しましたことは私の人生において大変意義深い経験となりました。

私の役割は揺籃期にある当クラブを是が非でも軌道に乗せることにありました。その為の基礎作りは、同様の轍を踏まぬよう新旧会員は

横一線の平等をまもり、会長はその最下点でクラブを支えることに徹することでありました。

平成 9 年 10 月 16 日、臓器移植法が施行され、日本全国民の関心が高まる最中に当クラブ最初の社会奉仕事業として市民フォーラム「いま、臓器移植を考える」を開催することが出来たことは幸いでした。人の尊厳死、人の死生に関わる社会問題をテーマに取り上げ、同時にドナーカード配布キャンペーンを継続事業として発足いたしました。

近隣 RC のご協力のもと多数の市民のご参加を得て盛会でありました。

それはまさに新旧全会員の一致協力の賜物でありました。そのパワーこそが新クラブの存在を外に示し、素晴らしいスタートを切ることが出来たと思っています。

お陰さまで 2 年目にして「RI 会長賞」「2640 地区ガバナー賞」（社会奉仕部門）「ワールドス

クール・プロジェクト特別賞」「出席優秀賞」の四部門受賞の栄に浴することができました。

会員増強活動は仁田前会員によって徹底して行われました。例会場移転の目的でもあった9名の女性会員のご入会を得られたことは当クラブの発展の大いなる源泉となりました。

そして其の中から、初の女性会長が誕生し、この度、輝かしく10周年を迎えることが出来たことは真に本懐とするところです。

クラブの基礎作りのために惜しみない努力と数々の貢献をされて去って行かれた会員の顔が一人一人思い出されます。

さまざま紆余曲折を経ましたが、これらの経験の積み重ねの上にこそ今日活力あふれるフェニックス RC の成長があることは感慨無量の思いです。

真の世界平和を実現するため人の心を善意で満たす修養の舞台としてロータリーを創設されたポールハリスの思想は永久に継承され、21世紀人類を地球危機から守るためにさらに活躍を願います。

これまでの会員諸兄のご活躍を心より賛え、堺フェニックス RC の新たな出発を祝します。



市民フォーラム「いま、臓器移植を考える」 於：ソフィア堺



ドナーカード 配布 開始  
南海高野線堺東駅前

### 3 代会長（1998～1999） 上田俊夫

平成9年3月に36名のチャーターメンバーで創立総会を行い、華々しくロータリーの世界にデビューした我が堺フェニックス RC は、私が第3代会長に就任した平成10年7月には会員数48名と過去最大となり、女性会員も他クラブに比し圧倒的に多く近隣クラブからすっかり注目されるまでになりました。会長就任早々、スポンサークラブである堺クラブの例会に幹事とともに挨拶に伺ったとき、どよめきを持って温かく迎えられたのが昨日のように懐かしく思い出されます。其のときはこれから1年間大切なクラブを預かるという責任の重さがひしひしと両肩にかかってきて妙に緊張したのを覚えています。

就任早々7月31日に会員の要望で「堺大魚夜市」に出店し、会員が交互にせり台に上がって大声を張り上げタイやハマチ、タコなどを売りさばいたことも懐かしい思い出のひとつです。これが起爆剤となり会員相互に連帯感ができ、親睦も深まったお陰で1年間楽しく充実したロータリーライフを送ることができました。

発足したばかりで、ロータリアンとしては経験も浅く、まだまだ未熟でしたがロータリーにかける情熱だけはどこにも負けなかったように思います。全員平等の精神の元、あらゆる奉仕活動に取り組み、会員家族まで巻き込んでロータリーに関わっていただき、例会からアフターロータリーまで笑いの絶えない素晴らしい1年間を送ることができました。時折親睦の度が

過ぎてぶつかることもありましたが、そこはそれロータリー精神にのっとり大人の対応で乗り越えてきました。

今から思えば会長として自分でやったものは殆どなく、地域のニーズを探る鋭敏な発想力と行動力を持ち合わせた、担当委員長さん方の奉仕の心がクラブを成長させ、素晴らしい結果を残すことができたと今でも感謝しています。

会長らしいことができたのは福井フェニックス RC との友好クラブ締結です。当時、会員諸氏の眼は自クラブの奉仕活動に飽き足らず、そろそろ姉妹クラブが欲しいという雰囲気を感じて肌で感ずるようになって来ました。そんな折、フェニックスという名をクラブ名に冠するクラブが日本にもう一つあるということで、ぜひ友好クラブにという声が挙がりました。

会員の総意に基づき折衝するのは会長の仕事と位置づけられ、早速福井フェニックス RC の鈴木会長さんにプロポーズの手紙を書きました。知り合いの全くいない未知のクラブに厚かましい手紙を書いて果たして受け入れてもらえるのか、そのためにはどのように書けばいいのか試行錯誤し、書いては消し、下書きを繰り返してやっとできた書面を勇気を持って送付し、OK を頂いたときの嬉しさは今でも忘れられません。

真心が通じ合えばあとは簡単です。担当委員長さんが先方と何度も連絡を取り、きめ細かに式典の準備をし、会員家族大勢で福井を訪問し、友好クラブの締結書にサインしたときは本当に感激しました。このときの経験が生かされ、数年後にタイ国のルンピニー RC との友好関係



が新たに生まれ友達の輪が更に海外にまで何よりの収穫だと思えます。

今、クラブは創立十周年を迎えすっかり成長しました。地区にも常時数名の委員長を送り出しリーダーとしての片鱗をみせかけておりま

す。これから先もおごることなく、ロータリーの勉強を怠らず、奉仕の精神を磨いて究極の目標である世界平和に寄与していけたらと願っています。

## 4 代会長(1999~2000) 神木照雄

### 幹事の頃

岡本勝士

年度初めの会員数48名、年度末会員数36名、どなたに聞いても幹事失格だったろうと思う。理事会のたびに退会届けを胸ポケットに入れていたことを思い出す。一緒にクラブ運営に携わった神木会長が退会されたのは寂しき限りである。

まず、この年度の活動を振り返っておきたいと思えます。

堺市の大魚夜市での臓器移植ドナーカード配布、神木会長が社会奉仕委員長であった2年前からの継続事業である。青少年交換を本格的に始めたのもこの年度である。フランスからのマチュー君、オーストラリアからのジェシカさんと田中宏樹君の交換などです。

社会奉仕活動としては、10月31日、『21世紀

投与にも神木会長以下4人も参加いたしました。前年よりの国内友好クラブ福井フェニックス RCの皆様との交流例会も楽しい思い出です。



幹事としての私が貢献できたとしたら、OA化、IT化のためにクラブ事務所にパソコンを導入し、会報の作成、会員管理をスタート、初代のホームページを立ち上げたことです。

### ポリオワクチン投与 エレファント島

神木会長の達筆(なんでしょう?)原稿をワード入力するのは私の仕事でした。

さて、最初に戻り、失格幹事のお話をしましょう。

私の推薦者中彌好美会員の教え「ロータリアンにはNOはないぞ。それと出席や」に従い、病気でもしない限り、まじめ会員をしていると、入会2年半で幹事指名。あるパストガバナーに「幹事は早くするほうがいい、ロータリーのこと良くわかる」とおだてられ、幹事の「か」も知らぬまま新年度に。初日(7月1日)から厳しくご注文、退会届とともに私の手元に。このときほどロータリアンが情けなく思ったことはありませんでした。社会の常識でいえば「幹事就任おめでとう。応援するよ」だろうと思っていたのに。この年度の半年間はウロのきた幹事、情報整理のできないまま、ロータリーを楽しめないままでした。そして会長をし、ガバナー補佐を終えた今日、「おめでとう」の言葉とともに、「10周年を共に迎えた会員が次年度以降の会長幹事を支え、一緒にロータリー生活を楽しもう」とお願いするしだいです。



### 10月31日 堺市民会館大ホール

を担う子どもたち』FORUM IN SAKAI `99で、地元の堺市立幼稚園連合会、堺市立保育所連盟をはじめとして、5つの団体の応援を得て、堺市民会館で開催、参加者は予想を上回る1374名で、地域社会に貢献できたのではと考えています。このイベントはRI広報賞を受賞しました。

インドのムンバイにおけるポリオ・ワクチンの



## 5代会長（2000～2001） 大塚寛久

「意識を喚起し-----進んで行動を」がこの年度のRIテーマで、年間を通じて大塚会長が「汗をかく奉仕」を訴えられたことは記憶に残るところである。特に地区の人々と共に行動することを強調され、①地域社会の青少年・保護者との大和川堤防の美化活動 ②堺大魚夜市でのドナーカード配布 ③地域の小中学生を対象とした職場体験学習 ④大阪刑務所(堺)への外国図書の寄贈 など地味ながら多くの事業を実施した年度である。職場体験学習では60名の小中学生をグループに分け会員の職場にて7回実施し、辻職業奉仕委員長はRIより

『四大奉仕部門功労者賞』を受賞した。刑務所への外国図書寄贈は、ロシア、イスラム圏各国など外国人受刑者の母国の書籍取り寄せのため世界の国々のロータリアンに呼びかけ、大きな成果を収め、「法務大臣感謝状」「大阪刑務所長感謝状」をいただいた。会員増強についても4名の純増を達成し「増強優秀クラブ賞」前年度より始まったOA化も着実に進み「手作り会報賞」を地区より受賞した年でもある。

(2000～01 年会報委員長 岡本勝士 記)



大阪刑務所外国人受刑者利用図書の寄贈



十数か国から寄贈された洋書



大和川清掃活動

## 6代会長（2001～2002） 岡田正一

幼少より友人であった上田俊夫さんより、お誘いを受け、チャーターメンバーとして5月29日の認証状伝達式に参加した時の感激は、今も忘れる事の出来ない思い出の一頁であります。と言いますのは、ロータリークラブは他の奉仕団体と違い一段高い所に位置しており、私の様な浅学非才の一介のサラリーマンが会員になれるとは夢にも思っていなかったからであります。

そんな私が、認証状伝達式に参加させていただき、晴れてロータリークラブの会員になれたのですから、夢を見ている様でありました。出会いがあれば必ず別れがあります。丁度、入会を勧められた時期が会社の役員に就任していた時でもあって、少し生活にもゆとりが出来ており、今までと違った観点より社会勉強をさせていただこうと快心し入会させていただきました。但し、会員多くの皆様が事業オーナーであったり、事業主であります。然し私は、役員とは言え、一介のサラリーマンであり、必ず定年がやって参ります。役員定年の折は年金生活者となるので、ロータリーを卒業して、家内とゆっくりと余生を過そうと力強く心に決めて入会させてもらった次第であります。

会員となってからは、私なりに精一杯ロータリー活動に取り組んだつもりでおりますが、時

として、情熱が先走り、口角泡を飛ばして、激論を交し迷惑を掛けた事も多々あったと思いますが、会員皆様の友情に育まれて今日まで大過なく過させていただきました。

こんな私ではありますが、創立5周年を迎える年度の会長として、皆様よりご推挙を受け、ロータリー暦が浅いにもかかわらず、会長に就任させていただきました。私の強い希望により、幹事に米田眞理子会員が就任され、陰になり陽になって私をサポートいただき、記念式典記念事業共に大過なく乗り切らせていただきました。会員諸氏の御支援、御協力にも改めて感謝申し上げます。

入会してから、今日まで忘れられない幾多の思い出があります。

小野会長年度、「今、臓器移植を考える」題したフォーラムを実施し、我がクラブが初めて実施した地域社会への奉仕活動の第一歩であった事。

上田会長年度には、「今、青少年問題を考える」と題し、青少年の非行防止に努めるフォーラムで会場一杯100人の参加者に大きな感動を与えた事。

「21世紀を担う子供達の集い」で堺市民会館大ホールを一杯にした事。等など、まだまだ書きつらねたい事がありますが紙面の都合で割愛いたします。当クラブの活動に対し、「RI会長賞」の受賞、地区よりも数多くの表



堺フェニックスロータリークラブ創立5周年記念 平成14年4月20日 於 南海サウスタワーホテル大阪

彰を受けた事も忘れられない事です。

当クラブが10周年を迎えるにあたり、2004～2005年度田中眞琴会長年度に私に実行委員長を引き受ける様に、御指名をいただきました。5周年記念の会長をさせていただいた事もあり、喜んでお引き受け致しました。翌三村会長年度に特別委員会、実行委員会を発足させました。米田会長年度に入り、米田会長と三村直前会長の強力なリーダーシップのもと、会員諸氏の理解と支援を得て、NPO法人「観濠クルーズ sakai」の立ち上げに参加し、観光船2隻の寄贈を決めて、翌年10月1日に無事、フェニックスⅠ・Ⅱ号を寄贈、就航させました。この船が、政令指定都市堺の新しい顔となって、「環境・福祉・教育」にと多面に渡り、地域社会に役立ってくれるものと確信しております。

記念事業は、船の寄贈の他に、国際奉仕委員会の手によって、昨年に引き続き、WCS活動を更に充実させるべく、タイ国ルンピニRCバンگرانRC合同でバンコク近郊の小学校に対し図書の寄贈を決定し、地区補助金を含め当クラブより100万円の送金を実施し、世界の恵まれない地域にも目を向けた活動を実施致しました。

当クラブの会員規模からしますと約580万円の記念事業であり、多額な事業に同意いただき、御支援をいただきました。会員諸氏に厚く御礼を申し上げます。記念事業は終わりましたが、4月7日の記念式典を会員諸氏の更なる、御支援、御協力を得て成功させたいと願っております。幸い多くのご来賓のご来臨、友好クラブ福井フェニックスRCより50名余の御参加、遠くは、タイ国ルンピニRCより24名の御参加を得て総勢150名余の参加をいただき、盛大な式典が挙行出来るものと思っております。

前述致しました様に、出会いがあれば必ず別れがあると記述致しました。既に昨年に45年余に渡る会社を卒業しており、ロータリーも輝かしい10周年を期に卒業し、ロータリーで学んだ地域社会への奉仕活動を違った形で実行したいと考えております。10年間お世話になりました会員諸氏に改めて厚く御礼申し上げます。



5周年記念事業、  
千利休屋敷案内標識・堺市所北側大小路シンボルロード御影石製ベンチ2基を寄贈

7代会長（2002～2003） 岡本勝士

（2005—06 RI2640 地区ガバナー補佐）

## 節目の年の翌年

10周年おめでとうございます。

私の年度、残された資料によれば14余りの事業を実施しているが、「岡本会長年度は楽しかった」の声を聞くときが一番幸せを感じる。5周年という節目のあとの会長であったことが幸いして、『ボトムアップ』だけをテーマに楽しみながら勤めただけなのに。

会長就任前私に与えられた責務は『堺 14R 新春合同例会をホストクラブとして開催』、『友好クラブ福井フェニックス RC10 周年記念式典参加』だけであったが、当時地区の青少年交換委員であった田中眞琴会員との「青少年交換留学生受けてもらえない?地区委員のクラブ受けないとかっこ悪い」「ともかくやってみよう」の会話から国際奉仕活動の一步を踏み出すことになった。当時私は、地域密着の社会奉仕活動を目指していたので『国際』の2文字にはアレルギーを持っていた。しかし、またまた彼から「海外友好クラブ作らない?」「ともかく行ってみよう」でバンコクに飛び、2002年11月8日『ルンビニRCとクラブと海外姉妹クラブ締結』を実現した。以来、毎年のWCS活動がわがクラブの特色となっており、地区のWCS委員長、青少年交換委員長、米山奨学委員長がわがクラブから出ていることはうれしき限りである。

『エネルギー保存』の法則(積み重ねた努力は必ずどこかで花開く、手を抜かず、気を抜かず)、米田会長とよく話す言葉である。“He Profits Most Who Serves Best”(あえて以前の原文を使う)に通じる法則だと思っている。私は会長の時、頻繁な委員会の開催と意見を出し合える理事会(継続審議のため例会後再開した理事会もあった)開催をお願いするとともに、ホームクラブ、クラブ行事 100%出席を自分の目標にした(健康管理もでき無事達成)。通勤時間を利用して頻繁に事務局・幹事・役員の皆さんと『コードレスミーティング』(電話魔?)で『情報の共有』に心を配ったが、意外とこれは楽しかった。その折々で会員一丸となって活動することにエネルギーを惜しまなかった会員のみなさんに改めて感謝する。

R I 広報賞をいただいた社会奉仕フォーラム『今、子どもたちの未来を考える』が実現できたのも、それが『堺フェニックス RC の歌』制定につながったのも、作詞・作曲者である『音もだち』の宮崎美智子さんの当クラブ会員の日常



こども劇団『音もだち』

の交流があったからだろう。初めて参加した土居川内川の一斉清掃活動にしても、翌年以降の継続事業としての積極的な参加しなければ、夢のある10周年記念事業に結び付かなかっただろう。

節目の年の翌年、ある意味では気楽な年度とも言える。しかし、一番難しい年度かも知れない。

本日の式典参加者が『奉仕の理想』に向かってどう纏まることができるか、20周年に向かってクラブの形をどう作るか大事な年度と私は思っている。



土居川・内川清掃 初参加



2002. 11. 8 タイ・ルンビニ RC 姉妹クラブ締結調印式

## 8代会長（2003～2004）岩尾 徹

「手を貸そう」という RI テーマの基に、会員数 32 名でスタート致しました。

わが堺フェニックス RC は親睦個活動と会員増強、退会防止、現状分析の総点検を中心に 10 周年記念事業につなげる基本方針を掲げて活動して参りました。

- ① 大阪国際大会に全員参加を達成。福井フェニックス RC とタイ・ルンビニ RC との家族例会に多数ご参加いただき一層の友好関係の輪を広げました。
- ② 会員増強、来会防止は 2 名の増強、退会者なし



大阪国際大会

という結果に終わりました。

- ③ 「内川・土居川を美しくする会清掃」、「交通キャンペーン」、「識字率向上」、「ロータリーの森」地道に汗をかく活動、を実施した。
- ④ ロータリー財団、米山奨学委員会の活動は、皆様のご理解とご協力により地区で上位を占める好成績を上げることができました。
- ⑤ WCS ではタイ・ルンビニ RC と姉妹クラブの継続契約を結ぶと共に、2003 年 12 月大阪国際大会で再開でき一層深い友好関係が築かれた。
- ⑥ クラブ細則内規を変更した。ロータリーファミリー委員会、ロータリー 101 年委員会においてクラブの現状を点検するとともに将来像について皆で考える機会を持った。

（アッセンブリー資料より）



国際大会親睦会



姉妹クラブ締結更新式

## 9 代会長（2004～2005） 田中眞琴

### 世界に向けた奉仕活動と

#### 10年を迎えるロータリー活動

ロータリークラブという名に初めて触れたのは、大学1年の時であった。小谷城テニスクラブに所属していた頃、支配人の大澤さん（パストガバナー）から、堺市とバークレー市が姉妹都市で、毎年交換学生の交流を行っているお話を聞き、次の年に大澤さんが、団長で行かれることをお聞きしました。そのときは、勇気が無く、テニスに力を入れていたこともあり、参加しませんでした。しかし、翌年、堺市が、バークレー市から、交換学生を受け入れる年となり、ホームステイをするホストファミリーとなりました。

その経験から、大学4年という時期に交換学生として、バークレー市を訪れることになり、前後で、バンクーバー、サンフランシスコ、ハワイを経験することが出来、バークレー市では、市民との交流、学生との交流、ヨセミテ公園へのキャンプなど、思い出深いものとなりました。その交換学生事業を当時支えていたのは、ロータリークラブでした。

約1ヶ月の短期間の経験でしたが、私の人生の方向性を変えたものでした。これをきっかけにアメリカへの思いが強くなり、社会人になっても、何とかアメリカとの貿易を行いたいという気持ちを持ち続けました。入社4～5年目で、ついにそのチャンスを得てアメリカ大陸を横断してのビジネスを行うことになり、毎年、訪問するようになりました。

私の家系では、その後、父が、ロータリアンとなり、堺北RCに所属して、何やら奉仕活動をしていることを知りました。その後、ご近所のロータリアンの方に誘われて、出席だけしたら良いと言われて、断り切れずにこの「堺フェニックスRC」に入会しました。

祖父も堺RCに所属しておりましたので、親子3代、異クラブでの奉仕活動ということになります。これも珍しいのではないかと思います。

入会当時は、諸先輩方が、いつも難しい話を

されていて、よくわからない日々が、続きました。もちろん、そんな状況が、おもしろい訳はないのですが、会長が、5分間くらい話される話、卓話者がされる話は、勉強になるものであり、社会勉強の為に続けるようになりました。ロータリークラブの中身が、解りだしてきたのは、SAAをした頃からだったと思います。やはり、会の進行役は、ロータリーを少しづつ知る手掛かりとなりました。本当の意味で、何をやっているかは、理事役員（当時、国際奉仕委員長だったと記憶します）になって初めて理解出来るようになりました。

自分の仕事もだんだん忙しくなり、シンガポールの出張が増え、ホームクラブ出席が、難しくなった時のメイキャップとして、シンガポールのRCを訪問するようになり、日本のロータリーとまた違った雰囲気と奉仕活動を経験し、ロータリーの中で、何が大切かということ自分なりに理解することが出来ました。それは、やはり具体的な奉仕活動の実施です。WCSという活動を知り、日本・シンガポール・フィリピンの3カ国共同での奉仕活動の実施が出来、感動、感動、感動の年となりました。

そして、また一つロータリアンの良さ、すなわち、世界に通用するクラブであり、自分が、ロータリアンであるということだけで、他国ですぐに受け入れていただけるという他では、味わえない関係が、自然と築かれていくことに驚くばかりでした。

その後、地区からのお声がけを頂き、青少年交換委員をさせていただくことになりました。正に私が、やりたかった事業が、天から降りてきました。この事業に関わることが出来たことは、私のロータリー活動を支えた大きな柱でした。我がクラブも他のクラブ同様いろいろな問題を抱えました。クラブに出席してもおもしろくない時期が続きました。しかしながら、地区において、来日する学生、派遣される学生と接触し、1年が終了したときの各スピーチを聴くことと成長した姿を見ることは、毎年、何とも言えない奉仕と呼んで良いのかわかりませんが、達成感を感じるものです。

さて、仕事柄、海外出張が多いのですが、東南アジア、中国などは、過去の日本の行為に対し、恨みを抱いているところが多いです。しかし、世代も変わりつつあり、薄れゆくことも事実です。そういうときになって、日本は何をすべきなのかと考えなければ、日本は、真の

アジアのリーダーにはなれないと思います。ロータリーの奉仕活動では、いろいろな分野があります。日本の経済は、大発展を遂げています。しかし、近隣諸国では、まだまだ発展途上の部分も多いです。タイやインドネシアなどに行くと売春などもまだまだ多く、特に日本人の姿が、目立ちます。同じ日本人として非常に悲しい思いをすると共に我々の奉仕活動が、打ち消されているような気がします。私は、そういう地域で、あなたは、日本人ではないと言われます。これは、複雑な気持ちになります。



100周年事業の給水塔

全ての人を助けることは出来ませんが、たとえ少しの人々でも同じ人間として、手をさしのべることが、大切だと思います。その積み重ねが、世の中を変えて行くことと思います。世界の中の日本人としての考え・行動が、これからは、必要であると思います。

クラブの中でも、国際奉仕(青少年交換事業、WCS, 米山・ロータリー財団への寄付など)に興味を持たれていない方も、まだまだいらっしやると思います。しかしながら、過去と比べて、その比率は、変化しつつあると思いますし、私はそれを実感しております。

私は、理解していただける方の比率をアップしていくためにも、国際奉仕という奉仕活動をこのクラブで、続けていきたいと思っています。やはり、参加していただくことで、理解が、生まれるものと思います。

今年度は、我がクラブから、3名の地区委員

長就任で、しかも全て国際奉仕関連ということで、国際的なクラブへの成長の表れであると思います。

クラブを代表しての3名のメンバーの地区への参加は、10周年を迎えるクラブにとって、大きな力となることでしょう。そして、このことは、クラブの未来の方向付けにも風見鶏の役目を果たすことと思います。

何はともあれ、一緒に10年を共にしてきたメンバーの方々と記念すべき10周年の節目をゆっくりと味わい、11年目のスタートを新たな気持ちで、迎えたいと思います。



4カ国4クラブ合同事業



出水を喜ぶ子供たち



完成式配布のパンフレット

## 10代会長（2005～2006）三村文男

まずは、創立10周年おめでとうと言いたい。

私は創立の1年遅れで推薦していただき1998年に入会して9年になります、最初は何もわからず、先輩諸氏の話、行い、特に高校の同級の上田会員、岡田会員、以前仕事の関係でお父さんを知っていた小野先生との話がすぐにできたので、少しは落ち着くことができました。

今までいろんな役をこなしていましたが、何かロータリーは違うものがありました。

それはロータリー100年近い歴史があり、組織がしっかり出来ているからだとわかりました。

入会後家内もロータリーの行事に参加し、私の家庭生活がロータリーの歯車の様になりました。



ランタ島訪問

岡本年度に職業奉仕委員長で初めて理事会メンバーでの勉強をさせていただき、その後の歴代会長さんに奉仕活動の要請をいただき、2005～2006年度会長を仰せつかり、9年目の会長として、10周年の米田年度にクラブとしての確立ができるかでした。

私年度からの事業継続をどう進めるかで、岡田会員に無理を承知で10周年特別委員長をお願いしました。今日を迎えるのも岡田委員長と委員会のおかげと思っています。

また田中年度から引き継いだWCSの津波ファンド、タイ・ランタ島の訪問でした。これも昨年11月に完成をみました。

また10周年迄に会員減少をくいどめなくてはならず、会員全員のおかげで+1で推移できたのも感謝感激でした。

単年度で終わるロータリーをどう継続して引き継ぐか大変勉強になりました。

私の残りの人生の「生き方」をおしえていただいたのがロータリーです。会員、家族の絆のもと私は大変楽しい思いをさせていただいております。法務省人権擁護委員、法務省子ども人権専門委員、その他奉仕委員として受けるきっかけをつくっていただいたのもロータリーです。この先もロータリーを続けていきたいと思えます。

私は堺フェニックスロータリークラブに入会させていただき、たいへんよかったです。

この堺で最後の新生ロータリーでこそ、また、「新しいもの挑戦できるクラブの雰囲気」を継続できれば、多少いろいろなことがあっても、この先20年、30年、堺フェニックスロータリークラブは不滅です。

最後に心残りなのは、私のロータリーの良き理解者でもあり、フェニックスが好きであった家内が、私の会長在任中病のため亡くなり、会員皆様に大変ご心配をかけたことです。



被災地の視察

創立10周年を祝おう

周之江書

5周年以後の活動についてはホームページでもご覧いただけます

URL: <http://www.sakaiphoenix.com>

編集 2007. 4. 7

会報雑誌広報委員会

委員長 小野晃範  
副委員長 岡本勝士  
委員 京谷知明  
吉岡宏明

